

夢・努力・感動 ～生徒とともに～

令和元年 12月19日(木)
第3学年 生徒・保護者向け
人権・同和教育部だより

みなさん、こんにちは。人権・同和教育部です。今年も残すところあとわずかとなりました。3年生の中にはすでに進路が決定している人も少なからずいますが、大多数の人は来年1月の大学入試センター試験等、受験本番に向けて勉強に余念がないことでしょう。インフルエンザも市内で流行しているようなので、体調管理にも十分気をつけください。

さて、今回の人権・同和教育部だよりは2学期に行われた人権・同和教育HR活動、全学年対象の人権講演会、3年生対象の講演会の3点について振り返ってみたいと思います。



人権・同和教育HR活動

11月13日(水)「結婚差別について」

○HR活動の内容(グループワークあり)

- ・「平成28年度島根県人権問題県民意識調査報告書」の資料から、現在でもなお、同和地区に対する差別意識が残存していることを知る。
- ・結婚差別の事例を通して、両親が結婚に反対した理由や背景について考える。
- ・2016年施行の「差別解消推進法」成立の経緯と目的を知る。
- ・今後、結婚差別事象をなくすために誰が、どんな立場で、具体的にどのようなことをすればよいかを考える。

○生徒の皆さんの感想文より

- ・資料3で「少なくとも人さまに平等を説く人間として自分を偽るようなことはようしません」という言葉があり、(婚約者の父親は)本当に人として何をすべきか分かっている人だと感じました。自分自身もそのような人間になりたいと思いました。
- ・部落差別を完全になくすためには、同和問題に関する授業等により部落差別の現実や理不尽さを知り、身近なこととして考えることが大切だと思います。私も自分の子どもができたらしっかりと人権教育をしたいと思いました。

全学年対象 人権講演会

演題「幸せな人生に変えるとおきの方法～今日から始めるアンガーマネジメント」

講師 稲田尚久さん 日時 11月22日(金)

○講演会について

「アンガーマネジメント」とは皆さんにとってあまり聞き慣れない言葉だと思います。今回、このテーマで講演会を実施した理由は、「ついカッとして、人を傷つけるような言動をしてしまった」、「イライラすると自分が押さえられない」など、自分の感情をうまくコントロールできなくて起こるトラブルが校内で見られるからです。皆さんの感想文では「笑いながらも深く考えさせられた」、「講演会の時間があっという間に過ぎた」、「聞いたことを、今日からすぐにやってみよう」という声が多く寄せられました。今回の講演会が、自分のコミュニケーション力を高め、お互いに気持ちよい人間関係づくりに役立つことを願っています。

(講演会要旨)

- アンガーマネジメントとは?・・・怒りで後悔しないこと ○怒り(第二次感情)の裏には、別の感情(第一次感情)が隠れている
- 腹が立っても、ちょっと待て!・・・反射的に行動しない(6秒待つ) ○怒らせる正体は?・・・自分の理想や願望「べき」(人によって違う)
- あなたに努力して欲しいこと・・・「まあ許せる」を広げる(みんな違ってみんないい)、「まあ許せる」はいつも同じ(人によって差別しない)
- 怒るときの【3つのルール】①人を傷つけない②自分を傷つけない③モノを傷つけない
- 整理して考えれば、怒りで後悔しない・・・「変えられるもの」(今すぐに) or 「変えられないもの」(受け入れる) 自分と未来は変えられる

3年生対象 人権・同和教育講演会

演題 「生きるということ」講師 三浦成人さん

日時 12月5日(木)

○講演会について

本校では例年、「源氏蛍の会」代表の三浦成人さんに高校3年間の人権・同和教育のまとめとして、3年生対象の講演会をお願いしています。三浦さんは県内外の中学校・高校を中心に、毎年多くの講演会を行っておられます。今回は講演会の直前にお母様を亡くされるというご不幸があったにもかかわらず予定通りに講演会を実施していただき、本当に頭が下がる思いで胸が一杯でした。

講演会では、三浦さんのご両親のエピソード、三浦さんご自身の壮絶な差別体験、三浦さんの生き方を変えるきっかけとなった大学時代の友人との思い出など、涙を流して聞き入っている人が多くいました。印象に残った言葉をいくつかあげてみます。



生まれた場所だけで差別されるということについてどう思うか

差別は「される側の問題」ではなく、「する側の問題」である

自分も以前は差別に立ち向かわず、差別から逃げようとするかっこ悪い卑怯な人間だった人から恩を受けたらその気持ちを忘れず、それを返せる人間になりたい

「今まで生きてきた中でこのような差別を感じたことがないので、LHRで学習する内容に実感がわかなかった」という人も、「小中高を通して様々な人権問題について習ってきたおかげで、今日の講演会の内容を理解することができた」ようで、「差別は現実に残っており、何もせずに放っておけば自然になくなるような簡単なものではない」ことも分かったと思います。三浦さんの言葉を深くかみしめながら

○生徒の皆さんの感想文より

- ・私は実際に差別を経験された方に会うのは初めてで、正直部落差別は今も存在しているのか、遠い昔のことではないかと思っていました。しかし、三浦先生のお話を聞いてとても心が痛くなり、自分の考えていたことは間違いであり、「差別」に対する気持ちや意識が全く違うものになりました。私たちはもっと「差別」に対する意識や考え方を深め、他人事ではないということを考えなければならないと思いました。
- ・三浦先生は「自分らしく生きなさい」、「困っている人がいたら助けるのは当たり前」と話されましたこの言葉はすごい重みがあると思います。先生のお話を聞いて強い思いを持った一人としてこれからも同和教育の解決に向けて行動していきたいと思っています。

最後に

島根県で現在のように学校教育の場で同和教育に力を入れるようになったのは、1980年代半ばに島根県出身の男性Aさんが大阪府において結婚差別事件を起こしたことがきっかけでした。Aさんは大阪で知り合った部落出身のBさんと交際し、結婚を約束しました。しかし、家族に結婚を反対され、差別意識を吹き込まれてから結婚を白紙に戻したあげく、最後は「今の世の中では、部落差別はしかたない」などの差別的な発言をするに至りました。Aさんは中学・高校時代を通じて「同和教育を学んだ記憶がない」と答えたそうです。加害者Aさんとその家族は初めから部落に対する偏見をもっていたわけではなく、正しい知識を持たなかったゆえにいつしか間違った情報や偏見を持ち、差別をする側になってしまったのです。

人権HR活動や3年生対象講演会の感想文では、このような差別を「将来自分が関わる問題」として差別の「不合理さ」を認識し、「差別解消」のために「行動したい」という声が多かったです。大社高校では高校卒業後に、他県に進学・就職する人の割合が圧倒的に多くなっています。卒業後は全国どこに行っても、人権的に問題ありと思われる場面に遭遇したときは、適切な行動をとって欲しいと思います。